

なくそう貧困。命の水を！

アジアネット

JAFS

NEWS & REPORTS 2020年冬

140



特集

「リーダー育てる教育」セミナー



JAFS

since 1979
公益社団法人アジア協会アジア友の会
Japan Asian Association & Asian Friendship Society



● 主な目次 ●

「巻頭言」 伝説の戦場記者	02
特集＝「リーダー育てる教育」セミナー	
「貧困からの脱出」めぐって論議	04～07
バリ島の「今」を巡る	07・08
ネパールの水インフラ現地報告	09
荒れた泉を救う闘い—インドネシア	10・11
井戸寄贈報告	12・13
未来を見据えてJAFS40周年記念式典	14
作文・スピーチコンテスト優秀作	15～18
「新・The 社会貢献」法人会員紹介	19
「われらJAFSの仲間たち」②	20・21
「JAFSプラザ」＝国内の活動	22・23
国際化めざして「カラフル松原」/SDGs達成へ協働フェスタ/瀬田敦子さんチャリティーコンサート/みんなで出展、きずな深めた/天气に恵まれチャリティーバザール/バザールカフェでJAFSをPR	
新入会員紹介・領収報告	24・25
「里子の笑顔」「アジアの友から」	26
「環境コラム」	27

アジア協会アジア友の会とは

アジア18カ国に井戸を贈る国際協力団体（NGO）です。1979年に大阪で設立。誰もが生まれてきて良かったと思える社会を目指し、2019年3月現在、井戸建設（累計2033基）や植林（累計255万本）、子ども教育支援を中心に活動しています。全国都道府県認可の社団法人取得第1号団体です。2012年4月1日からは、内閣総理大臣の認定を受け、公益社団法人になりました。

海外との交流・協力活動は、インド、インドネシア、バングラデシュ、タイ、マレーシア、フィリピン、スリランカ、ネパール、韓国、カンボジア、シンガポール、ミャンマー、ラオス、中国、ベトナム、モンゴル、パキスタン、アフガニスタン、さらに西アフリカのブルキナファソにも広がり、友情のネットワークが形成されています。

日本国内でも、各地でチャリティープログラム、自然環境プログラムなどを行っています。

※ホームページ <https://jafs.or.jp>

本会へのご寄付は、寄付金控除の対象です

JAFSは内閣府より公益社団法人としての認定を受けています。JAFSへの寄付金や会費（社員会費は除く）は、申告によって、所得税、法人税、相続税について税制上の優遇措置（寄付金控除）を受けることができます。

確定申告の際、税額控除、所得控除のいずれか有利な方を選択できます。本会発行の領収書を添付して申告してください。法人税は損金の額に算入することができます。相続税は最寄りの税務署などにお問い合わせください。

巻頭言

A君。お元気ですか。年頭のご挨拶は去年9月に公開された映画「プライベート・ウォー」（マシュー・ハイネマン監督）からはじめます。アメリカ人の女性ジャーナリスト、メリー・コルヴィンの生涯を描いた作品です。エルル大学卒。UPI通信で警察担当記者を務めた後、英国のサンデー・タイムスに入社。レバノン内戦、湾岸戦争、チェチェン紛争などの現場を駆け巡り、スリランカの内戦取材中に被弾して左眼を失明。海賊のよ

伝説の戦場記者



法花 敏郎
アジア協会アジア友の会
常任理事

うな眼帯をまいて取材を続けた伝説の戦場記者です。2012年2月、内戦下のシリア・ホムスのババアム地区に駐留して反政府勢力を取材。政府軍に包囲された2万8千人の市民の過酷な状況をBBC、CNN放送などを通して世界にライブ中継しました。「今日、幼い子に爆弾の破片が当たり、小さなお腹を波打たせて死んでいきました」。その数時間後、政府軍の砲撃を受けて亡くなりました。享年56歳。半年後の12年8月、やはりシリアで内戦取材中の日本人ジャーナリスト、山本美香さん（ジャーナリス所属、当時45歳）も政府軍の銃撃を受けて死亡しています。

A君。小生は1987年5月3日夜、朝日新聞阪神支局襲撃事件の現場から記事を送りました。散弾銃を持った覆面姿の男が支局に侵入。小尻知博記者（当時29歳）を殺害、もう一人に重傷を負わせました。小生は当時、社会部の宿直班。現場に駆け付け、血だまりのソファのそばで鉛筆を握っている最中、「支局を爆破する」との脅迫電話があったのを今も鮮明に覚えています。4カ月後には朝日新聞名古屋本社社寮のテ

● プロフィール ●

ほっけ・としろう
三重県生まれ。1970年、神戸大学経済学部卒。朝日新聞社会部次長、地域報道部長、大阪本社代表室長、朝日ビル社長を経て2014年からJAFS理事。「和歌山カレー毒物混入事件」のスクープで日本新聞協会賞、長期連載「この国の足音」で坂田賞を受賞。

ねばならない事がある、と信じて一歩前に踏み出したのです。戦争の被害は子どもやお年寄り、貧しい人らにしわ寄せられます。シリアから多くの人たちが国外に脱出しています。が、お金のない人たちはその地にとどまるしかすべがないのです。コルヴィンさん、山本美香さんはその窮状を世界に訴えようとしたのです。A君。リタイア後、小生はご縁があつて「アジア協会アジア友の会」（JAFS）の雑誌編集のお手伝いをしています。JAFSは「貧困のない一つのアジア」を目指して井戸堀、植林などの活動を続けています。戦場取材のような危険はありませんが、何よりも現場を大事にすること、人が人として生きる権利（人権）に目配りするという二つの点で共通するものがあると思えます。事務所は大阪・肥後橋にあります。気軽に立ち寄りください。

- 一、地球の自然環境を大切に守ります。
 - 一、生活の無駄を省き、地球資源を大切にします。
 - 一、これらの奉仕活動を通して、自分と他人の生命の価値を高めます。
- 以上

JAFS会員綱領

私たちは、世界の平和と人間の基本的人権を守るために人々との「友情と信頼」に基づく「理解と協力と連帯」の輪をアジアと世界に広げます。

かかる目的をもって私たちJAFS会員は以下のことに努めます。

- 一、より人間らしい地球社会の創造をめざします。
- 一、アジアと世界の人々の幸せに奉仕します。

教育は未来への パスポート



アジア国際ネットワークセミナーに11カ国から集った参加者たち
=2019年10月8日、インドネシア・バリ島、ディアナプラ大学

アジアの貧困層を支援する「公益社団法人アジア協会アジアの会」(JAFS)がアジア各国の仲間を集めて明日への課題を話し合う「第29回アジア国際ネットワークセミナー」が2019年10月8日から4日間、インドネシア・バリ島で開かれた。JAFS創立40周年を迎えた節目の年のテーマは「貧困から人々を救済し、地域社会のリーダーを育成する教育の役割」。学校やトイレの建設、貧しい子らの教育費を支援する里親制度、遠隔地の子らの受け皿となる学生寮の運営など様々な取り組みが報告された。講師から「アジアに豊富な薬草やハーブの栽培を、貧困から抜け出す手段にしよう」との提言があり、高原のハーブ園を見学した。大会は教育の在り方が私たちの暮らしや人生と密接なかわりを持っていることを確認。活動目標として①基礎教育の重視②貧困層への知識と技術の伝達③思いやりと人間の価値観を育む教育の継続などに取り組みととの大会宣言を採択した。(JAFS常任理事・広報企画委員長 法花敏郎)

「貧困からの脱出」めぐって論議

11カ国から96人が参加

セミナーの会場はバリ島南部のディアナプラ大学とホテルの会議室。インド、日本、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、ネパール、シンガポール、バングラデシュ、フィリピン、マレーシアの11カ国から96人が参加した。

2019年10月8日朝、ディアナプラ大学のホール。ピンクとブルーのあでやかな民族衣装に身を包んだ5人の大学生が歓迎の民族舞踊を披露した。

ライ・ウタマ学長が開始の合図を告げる大きなドラを叩いた。「ディアナプラとはサンスクリット語で瞑想の聖地という意味です。この地で皆さんの活発な論議を期待しています」とあいさつ。

AFS(アジア友の会)シンガポール代表であり11年間の教師経験のあるエドワード・オンさんが「人々を貧困から救済する教育の役割」について講演した。エドワードさんは「私たちは教育を通して知識や情報を学び、仕事につき、他者と対話し、技術を磨く。パン屋さんから農漁業、介護、配達などあらゆる仕事に必要なものです」と指摘。とりわけ重要なのは「教育と経

済発展のかかわり」であり、教育の向上は経済の発展をもたらす。2018年の世界の国別の教育ランキングは上から順に豊かな英国、アメリカ、カナダ、ドイツなどとなっていることに触れ、「貧困からの脱出には教育の向上が欠かせない」と教育の果たす役割の重要性を強調。アメリカの公民権運動活動家・マルコムXの言葉を引用して「教育とは未来へのパスポートである」と述べた。

ウダヤ大学のN・D・プトラ教授は「グローバル時代の地域のリーダー育成」について話した。それによると、バリ島の観光客は年々増え、国内外合わせて年間1200万人にも達し、入

場料、駐車場などの観光収入はうなぎのぼり。ところが、観光地への恩恵を調べると、地域のリーダーがしっかりとしているかどうかで大きな差がある。夕日が美しいヒンズー教のタナ・ロット寺院は地方の役所と業者が地元をつちのけで入場料、駐車料金、店舗のテナント料収入をすべて独占していた。これに不満な地元の人たちがデモをするなど抗議した結果、7年前からようやく収入の4割が地元の複数の村、二つのお寺に入るようになった。残る6割は今も地方の役所の収入だ。

他方、700匹のサルが住む森「モンキーフォレスト」や海がエメラルドグリーンのパンダワビーチでは観光チームの最初から村人たちが会議を重ねて対応を協議した。地方の役所が口を出す前に管理を地元で一元化。これにより観光の収入はすべて村に入る仕組みを確立した。入場料などの収入は地元の宗教行事、子らの奨学金に使われ、観光資源のない他の村からうらやましがられている。

プトラ教授は「バリにはほかにも観光地がたくさんありますが、パンダワビーチのようなラッキーなケースになるとは限らない。観光資源を管理できるリーダーの養成が必要です」と話した。

豊富な薬草の活用を提言

薬草とハーブの専門家であるインドの医

療に詳しいアユーラ農業大学のワシヤ・タプリー教授は「家族と地域の健康を支えるハーブの利益」と題して講演した。それによると、薬用植物を用いるインド大陸の伝統的医学のアユールヴェーダ、ヨガ、ユナニ(イスラム医学)などの自然医療が政府の認可を受けている。最近、現代医学を補完・代替する医療として注目されるようになった。これに伴って薬用植物の需要も増加し、世界中の植物性薬品の貿易高は年間3兆5千億円に達する。

アジアは薬用植物の宝庫で、生産高は世界の44%を占める。アメリカ、ヨーロッパ諸国、日本に輸出されている。タプリー教授はスライドで様々な病気の治療に使われる薬草や栽培法を紹介した。自然医療に使えるこれらの植物や木の葉、根っ子、果物などを製薬会社に持ち込めばお金になる。

「アジアの村にビジネスチャンスがやってきました。薬用植物は家族や地域社会の健康を守り、貧困から救う有力な手段です」とタプリー教授。地域が取り組むこれからの課題として「市場調査と組織化された栽培方法」をあげた。参加国のメンバーからは「薬草は人間の体に優しい」(タイ)、「医療費は高い。薬草は身の回りにいくらでもあるので、NGOはその活用を推進すべきだ」(カンボジア)などの声が上がった。

貧困層を救う教育の取り組みを各国

が報告した。この中でカンボジアAF S事務局長のロン・チョーンさん(写真左)はJAF Sの支援で37カ所の幼稚園と小学校、9カ所のトイレを建設したことを報告。日本の里親の支援で207人の貧しい子どもたちが学校に通えるようになったこと、その中には大学に進学して情報技術を学んでいる大学生や保険会社のITスタッフとして活躍している子どもなどがいることを紹介した。



タイ・バンコクにある、都会の大学に通えない僻地の学生のための学生寮、キリスト教学生センター(SCC)からは同寮のできたいきさつや運営についての報告があった。同センターによると、学生寮を建設した1954年当時、タイでは全土に5つしか大学がなく、都会に下宿できるだけの経済的なゆとりのない高校生は大学進学を断念せざるを得なかった。このため、中高校生向けに4階建ての学生寮を建設。以来、毎年、約20人を受け入れていく。「信頼、信念、自由」の精神を身につけたリーダーの養成を目指して地域に役立つプログラム(ペンス塗り、コンサートなど)を寮生自らに考えさせて取り組ませている。

同センターを巣立った寮生は約4千人。教会や地域のリーダー、法律家、看護師など幅広い分野で活躍している。東京大学の博士課程に進学した者、医師となって成功した者、大学の創設者になった者もいる。同センターのラヴィ・ポーン所長は聖書の言葉を引用して「地の塩、世の光とな

り、人を光らせる」と語り、JAF S 40周年を祝う行事で、バリの学生がお米で作った誕生ケーキを前に話す村上市務局長(中央)は10月8日、ディアナプラホテル

を前に話す村上市務局長(中央)は10月8日、ディアナプラホテル

れと教えています」と語った。「地の塩」とは腐敗を防ぐ塩のように「社会や人心の純化の模範(手本)たること」との意味だ。

「知識と技術を」大会宣言

JAF S創立40年のあゆみを振り返って参加者から発言があった。創設者の村上公彦・JAF S専務理事兼事務局長は「地域の抱える問題は他人に頼っては出来ない。問題の解決に何をすべきか。それを考える能力を身につけることが重要であり、まさしくそれが教育だ。自らが変わらなないと、社会は変わらない」と話した。

1990年、第1回のアジア国際ネットワークセミナーがタイで開かれた時のディレクターを務めたコーソン・スリサン・前タイSCC所長(写真右)は「貧困を取り除き地域のリーダーを育成するという今度のセミナーのテーマは素晴らしい。貧困の撲滅はすべての問題の頂点にあるから、これから5年間あるいはそれ以上このテーマで突き進んでいこう」と述べた。

井戸掘りや植林を手掛けるバリのホサナ財団代表のエカ・サントサ牧師は30年前、大阪府枚方市のグループを率いてバリにやってきた村上さんとホテルで初めて会った時の思い出を披露。職業を聞かれたので「牧師です」と答

今年はスリランカで開催

メンバー相互の交流を深める「カルチャーナイト」(夜の文化祭)が開かれたのは10月9日。各国の参加者がお国自慢の踊りや歌を披露した。受け入れ側のディアナプラ大学では65人の学生を動員。受付から司会、民族舞踊、

バリ島の「今」を巡る

浸食で失われた浜辺

遠くからそのホテルを見たとき、1960年代のアメリカ映画「猿の惑星」のラストシーンの記憶がよみがえった。波打ち際で傾いた「自由の女神」像のように、バリ島のリゾートホテルは朽ち果てていた。

フィールド研修が開かれた10月10日、グラライ国際空港から北東へ約30キロのシュットビーチを訪れた。ディアナプラ大学の講師シディ・トルカーさん(60)の案内で、4人のメンバーがホテルの敷地に入った。海に突き出したプールは斜めに傾いて崩れ、3階建てホテルの天井パネルははがれ落ち、躯体を支える鉄骨がねじ曲がっていた。

「アランアランバンブーホテル」



荒波で破壊されたアランアランバンブーホテル
=2019年10月10日、シュットビーチ

は、1997年に開業した。当時は、最上級のリゾートホテルとして多くの観光客でにぎわったそうだ。ホテル前のビーチは砂浜が延々と続き、ハネムーンカッパルの絶好の撮影スポットになっていたという。やがて、海面上昇で浜辺が消え、プールが破壊された。そして2004年、ホテルはわずか7年で営業をやめた。ホテル脇の小さな売店小屋の前で、

女性がココナツヤシの葉でヒンドゥーの儀式用の飾りをつくっていた。名前

えたら、やはり牧師の村上さんから「教会のみならず社会に役立つ牧師なれ」と言われた。その後、ネパールで開かれたネットワークセミナーに参加してAF Sの活動を知り、バリに財団を設立した。スタッフは3人。これまでに7つの給水パイプラインをつくった。「村上さんのあの一言が私の人生を変えたのです」と語った。

AF Sマレーシアのフランチェスカさんは1992年にバリ島で開かれた第3回大会に初めて参加。メンバーの献身的な姿に感動して毎年のように参加し、今度で26回目。宗教的少数者ゆえに迫害されてミャンマーから逃れている。「多くの人との出会いがありました。この間に培われた友情に終わりはありません」と語った。

セミナーは最終日の10月11日、大会宣言を採択した。宣言は貧困をなくして地域のリーダーを育成するための今後の取り組みとして①窮乏し疎外された人々に知識と技術を与える②基礎教育の手段と範囲の拡大③メンバーの協働と連帯の強化④思いやりと人間の価値観を育む活動を続ける⑤自己啓発を進め、地域社会との友情と連帯のメッセージを広めるAF Sへの参加を促す――をあげている。

参加者は期間中、ハーブ園、マングロープの植林、海岸浸食で失われたリゾート地、有機農業とリサイクル工場宴会の料理を担当した。その一人、調理を専攻している2回生のダン・リー君はスパイスのきいたインドネシア料理に腕をふるった。「ホテルのシェフになるのが夢です」と目を輝かせた。2020年の第30回アジア国際ネットワークセミナーは10月にスリランカで開かれる。

はイブジェローさん(52)。子ども4人と夫の6人家族だ。1畝の水田でコメを作っていたが、海面上昇によって田んぼは砂と塩水をかぶった。耕作放棄し、今は祭祀の飾りや飲食物を売って糊口をしのいでいた。

「ここにはとても美しく長い浜辺があった。あのころから、海はどんどん近づいてきた」と彼女は言った。売店のすぐ近くに海岸浸食の注意を呼びかける看板が立っていた。写真を撮らせてもらおうと、イブジェローさんは「来年はこの看板も危ないかもしれない」と言い、少し笑った。

トルカーさんは、浜辺の後背地を指さし、「ビッググライスフィールド」と言った。40年にわたって長い砂浜が続き、一帯は水田地帯だったという。今はどう見ても荒野だ。耕運機に乗って作業している農夫がいた。今はトウモロコシしか育たないそうだ。トルカーさんは「浸食は温暖化による影響だろう。干潮線は5年前に来た時には50

先にあったが、いまは5〜10分ほどまで迫った」と話した。

地球温暖化による気候変動はまず、波打ち際から押し寄せてくる。そして、そこで生計を立てていた人たちを貧困に陥れている。英紙「ガーディアン」は昨年5月、地球温暖化という言葉

薬草栽培が地域をうるおす

我々は、地域産業に貢献する伝統薬草づくりのフィールド研修ということ、バリ島中部の高原地帯キンタマニ二郡チュトル村にあるシユバ農園を訪

葉を「地球炎暑化」に変えた。「気候変動」は「気候危機」と呼び始めた。バリ島のビーチでその言葉の正しさを実感した。

映画「猿の惑星」の「自由の女神」像は、核戦争によって破壊された姿だった。核攻撃は広島、長崎で起きたこ

問しました。

応対してくれたのは2代目社長のクリティさん、48才です。元々は1980年に父親が始めたコーヒー園を2005年からクリティ氏が引き継いだとのこと。1980年は24人の従業員でしたが、今は67人まで増加しています。コーヒーは55鈴、薬草（ハーブ）は2鈴、計57鈴で栽培しています。この土地は1鈴あたり1000米ドル（約11万円）、約630万円で購入したが、既に銀行ローンは払い終えたそうです。

コーヒーは香りの良いアラビカ種でキンタマニコーヒーとして、ジャカルタなどインドネシア各地、オーストラリア、ドイツなどで売られているとのこと。将来は日本へも輸出したい。

薬草農園とチャトル山を背景にして立つクリティさん。10月10日、チュトル村



とのように一瞬で町を破壊し、多くの命を奪う。いま同じようなダメージが、地球上の各所で進んでいる。それは極めてゆっくりとしたスピードだが、確実に。

（JAFS会員・元朝日新聞記者 中村正憲）

いと言っていました。

薬草は45種類を栽培しています。胆石に良いカマリップスや熱を下げるサンブユニ、中には高血圧に良いものや認知症予防に効果のある薬草も栽培されていました。

地域の雇用や経済にも非常に貢献しているようでした。

（JAFS常任理事 西田貞之）

津波災害から学び マングローブ植林

フィールド研修の一環として、デンパサールの南部にあるマングローブの植林地区を20数名のメンバーで訪問した。ここはもともと漁村であり漁業で生計を立てている地域だが、2005年に起きたスマトラ島沖大地震による津波災害に鑑み、津波に対する防災の一環としてマングローブの植林に力を入れてきた。

現在はJICAの支援もあり、地元小学生の環境教育の場としての活用を

マングローブ植林地区をボートで視察。10月10日、デンパサール



はじめ、ボートで周遊する観光ルートとしても活用されていて、毎月200名以上が訪れているそうである。

実際、今回ボートでマングローブの生育地を一周したが、空港も近く高速道路が上を走るような港湾地域でありながら、自然保護を進めているところがすばらしいと感じた。ただ、地元の河川から流れてくるプラスチックごみもあり、ごみ対策を官民一体で進めていく必要があるだろう。

（JAFSスタッフ 柿島裕）

タンク3カ所設置完了 残るは1カ所と高層貯水槽



ネパール 水インフラ プロジェクト

ネパールのシンドウパルチョーク郡インドラワティ村10地区（旧ボテシパ村）で2019年3月に開始した、持続可能な地域を旨とする震災復興支援プロジェクトの背景や現状をお届けします。

このプロジェクトの発起人は10地区長のジーヴァンさんです。有機農業を推進し、将来ボテシパ村がアグリツーリズムとして発展する地域づくり、また村人が都市や海外に出稼ぎに行かなくても村で収入を得られる環境づくり

を目指しています。

ジーヴァンさんが母親の故郷ボテシパ村で活動を始めたのは約20年前です。当時の村は道がなく、人の行き来や仕事もなく、村人は昼間からお酒を飲んでる状況でした。そこでジーヴァンさんは村でスポーツプログラムをしたり、子どもたちにアルファベットを教えたりしました。村人がお酒を飲む以外にも楽しめることやエネルギーを使えることを勧めました。また村に道や水インフラを整える必要性を感じ、村全体に水が行きわたることも考えていました。

父親がゴルカ兵としてイギリス軍に従軍していたため香港で生まれ、海外

各国に渡り育ち、マレーシアに出稼ぎに行った経験もあることから、インフラ設備が整っている他国を見て村の現状を変えたいと思いました。

その後何年も経ってAFSネパールとジーヴァンさんが出会い、村に小規模水道パイプラインを通す計画についてJAFSがボテシパ村の支援を始めました。そして15年の震災を機に里子支援、教育プログラムやバイオガスプラントの建設、復興住宅や学校再建など様々な支援をJAFSはこの村でしてきましたが、震災後の水脈の変動の影響で、今も十分な水を得ることが難しい状況が前進をはばんでいます。

このように総合的な復興を旨とした

活動の中で、今回のプロジェクトでは大規模水道パイプラインを建設することで農業の基盤づくりを行っていきます。川辺の井戸水写真上をくみ上げ、800m以上の山頂まで4カ所のタンクを通して徐々に水を揚げる揚水システムを建設しています。下から3カ所目のタンク。同下までの建設が終わり、残り1カ所と高層貯水槽です。タンク間を結ぶパイプライン接続の作業も本格的に始まり、水源の水が各タンクに送られていくことがイメージできます。

農業の基盤づくりとして、村で形成した農業グループメンバーに向けて、2回目の研修を11月に実施しました。行政の農業知識習得センターからカピタ・スベディさんに来ていただき、化学肥料を使用する有害性や、様々な種類の堆肥や土づくりについて、また村人が現在作っている種類の野菜の栽培方法、病虫害の種類や、どのように対処するかなどの話をさせていただきました。農業グループのメンバーにとって新しい知識の習得になりました。

また1回目の研修で習得した有機堆肥づくりは、メンバーが各家庭で実践している状況です。農業基盤をつくることは時間がかかりますが、グループが意欲を維持できるようサポートしていきたいと思っています。

（JAFSネパール駐在スタッフ 中川寛子）

荒れ果てた泉・カリムペサンを救う闘い

AFSトモホン事務局長(インドネシア) ジミー・ポントー

◆カリムペサンとは

パストラテンはインドネシアのスラウエシ島北部、トモホン市の東部に位置し、サム・ラトゥランギ国際空港から車で約1時間半かかります。

このパストラテンにあるカリムペサンは、トモホン市最大級の泉の一つで、昔から特に長い乾季に地域に水を供給してきました。

しかし長い間、地域住民がここできれいな水を得ることは、しばしば問題がありました。

題がありました。泉の水を吐出する管から水が正常に出ないことがあったり、ここに来られる人が限定的だったりしました。また泉を水源に水道を設置しようにも、貧困家庭には費用がとても高額でできませんでした。

◆問題点

残念なことに、カリムペサンは適切な管理や手入れをされていませんでした。写真右上。地方政府ですら、この泉の公共利用に関心を持ちませんでした。

た。地域住民にさえ、この場所を既に何年もごみ捨て場としてきた人たちがいるので、いろいろな種類のごみが積み上がっており、それを目にする周囲の人々に悪い印象を与えています。

◆対策

2015年に私たちはここでいくつかの活動を始めました。

JAFSおよびイオンリテールワークスカーズユニオンの支援を受けて、きれいな水を供給するための貯水池を建設しました。写真左上。水浴び場と水路の修理もしました。周囲の植林と、従来

通りの清掃活動もしました。

◆挑戦

活動を計画通り実現するには、多くの障害に直面します。カリムペサンの公共利用の重要性に気づいてもらえるように、地域住民や地方政府を納得させる方法を見つけなければなりません。これには時間と忍耐が必要です。

2015年から18年にかけても政府の関心をひくために様々な試みをしてきましたが、失敗しました。政府からの法的措置が何も無いまま、19年半ばにも、泉の周囲の木々が何者かに切り倒されました。

◆結果

最適とはまだ言えないまでも、今では地域住民のほとんどが、この泉の美化にいつそう関心を持つようになっていきます。何人かの若者たちはやる気を出し始め、プラスチックごみの片付けを主導しました。写真下。

また地方水道公社PDAMにより貯水池からの水の供給が始まり、何百もの家庭が恩恵を受け始めました。水浴び場も今は水が豊富でより良くなっています。

ここでのAFSの活動は先駆的であり、周辺地域の人々の記憶に残る顕著な便益を既に与えています。

(翻訳: JAFSスタッフ 川本裕子)
※カリムペサンは第二次世界大戦中には、日本軍の炊事場として使われていました。



people around are more concerned about the cleanliness of this place. Some young people even started to get excited and took the initiative to clean up the location from plastic waste.

Water from the reservoir has started to be distributed and used for the benefit of hundreds of families managed by the local government company (PDAM). The public bathing area is better now with an abundant supply of water.

The AFS programs had become a pioneer here that already provides extraordinary benefits that will not be forgotten by the surrounding community.

Kalimpesan, a struggle to save abandoned spring water

Jimmy Pontoh

Executive Director of AFS-Tomohon, Indonesia

◆Kalimpesan at a glance

Paslaten is located in eastern part of Tomohon city, North Sulawesi, Indonesia. It takes about one hour thirty minute drives from International airport Sam Ratulangi.

For years some of local resident often have a problem with clean water supply here. Water pipes are often not working properly or water distribution access is limited and also the installation cost is quite expensive for poor families.

Kalimpesan is one of the largest springs in Tomohon city, which has supplied water for local since long time ago, especially during the long dry season.

◆Problems

Unfortunately, Kalimpesan is not managed optimally nor cared for. The local government even did not pay attention about this place for the sake of the public.

Some local people even has already makes this location as a garbage zone for years that we can find various kinds of garbage pile up which can have a negative impact for the people surrounding.

◆Solutions

In 2015, we started several programs here. With the help of JAFS sponsored by AEON Retails Worker Union Japan, we build a water reservoir for supplying clean water included repairing public bath facilities and waterways. We also do planting trees and regular cleaning programs.

◆Challenges

There are many obstacles that must be faced in implementing the programs as per planned. I have to find the ways about how to convince the surrounding community and government to be aware of the importance of Kalimpesan for the sakes of public. It takes time and patience for these efforts.

Various attempts were also made to get the attention of the government from 2015 - 2018 but failed. Even in the middle of 2019, several trees around the spring were cut down by some people without any legal action from the government.

◆Results

Even though it's not optimal yet, now most of the local

干ばつ時にも蛇口から水が出る井戸

人口543人の90%が貧しい小作農民であるこの村で、従来から使っている井戸は十分な水量がなかった上に、昨今の気候変動により干ばつが頻繁に起こり、村人の生活に大きな影響を与えていました。今回完成した井戸によって、干ばつ時も心配せず安全な水が手に入るようになりました。井戸の横の蛇口からも水が得られるほか、大きな井戸に間違っ人や動物、落ち葉等が入らないよう、ふたができます。村人たちの協力で井戸への道も整備され、村の生活が大きく改良されました。



【寄贈者】大山利子 様

中部州キャンディ県ナゴラガマ村
 受益者…206名(47世帯)
 井戸形式…露天式(深さ5m)

【寄贈者】全国レディーズ中央会 エル・プラス大阪 様



北中部州ポロンナルワ県アッカラ800村
 受益者：250名(47世帯) 井戸形式：露天式(深さ7.4m)

近くに安全な水

この地域はスリランカの中でも特に水を^{かんが}得ることが難しい乾燥地域で、11世紀に灌漑設備ができるまでは農業もできない土地でした。昨今干ばつが頻繁に起こるようになり、農業用水路から生活用水を得ていた村人たちは困っていました。長距離歩いてわずかな水しか得られなかった村人は、贈られた井戸により、近くで安全な水を得ることができるようになり、地域住民の生活は大きく改善しました。子どもたちも水くみから解放され学校に通えるようになりました。

井戸水で病気の苦しみを減る

この村の住民は近くに井戸がなかったので、強い日差しの中、長時間かけてため池まで歩き、毎日水を運んでいました。安全とは言えない水が原因の腎臓病や皮膚病など多くの健康問題に苦しんでいました。病気になっても近くに病院がなく、医療費もないため、治療を受けることもできませんでした。井戸ができ、安心して飲める水が得られるようになりました。井戸をきっかけにして健康指導や衛生教育のプログラムも行われるようになり、村人の生活が大きく改善しています。



【寄贈者】株式会社メモス 様

北中部州ポロンナルワ県イキリウエア村
 受益者…150名(25世帯)
 井戸形式…露天式(深さ9.1m)

ご寄付には
 税の優遇措置が
 受けられます

なくそう貧困。命の水を！

井戸の寄贈にご協力ください。あなたの力がアジアの人々の命を助けます。ご寄贈者に完成報告書、写真、パネル写真を届け、現地の井戸に、ご寄贈者のネームプレートを設置します。

■井戸1基の建設に必要な費用■ (2018年4月現在)

インド=60万円 フィリピン=33万円
 カンボジア=28万円 スリランカ=22万円
 ネパール=17万円 (パイプライン=25~150万円)
 バングラデシュ=浅井戸22万円、深井戸55万円

※5年間のメンテナンス費、現地管理費を含む概算です。※現地資材費高騰により費用を1割増に変更させていただきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

■お振込み先■ ・郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会
 ・三菱UFJ銀行大阪中央支店 普通1968711 公益社団法人アジア協会アジア友の会

詳しくはアジア協会アジア友の会
 ☎06-6444-0587へ

安全で衛生的な水を確保できないアジアの地域に井戸ができて生活基盤が整い、自立へ一歩踏み出せるようになりました。ご寄贈くださったみなさまに感謝申し上げます。

みなさんのおかげで井戸ができた村

乾期にも干上がらない井戸ができた

村は深い森の中に位置し、病院はなく、治療には村から25km離れたところにある病院まで行かなければなりません。村の社会環境を変えるための活動をしている女性の自助グループが、乾期には村の井戸が干上がってしまい、遠く離れた井戸まで水くみに行かねばならない女性や子どもの負担を軽減したいと地域のNGOに相談し、ようやく井戸建設が実現しました。この井戸によって村人たちは水による生活の困難から解放され、徐々にですが健康と衛生の改善が図られつつあります。



【寄贈者】唐招提寺 様

マハラシュトラ州ガッチロリ県サクヘラ村
 受益者…255名(62世帯)
 井戸形式…ポンプ式(深さ60m)

【寄贈者】藤田はつほ 様

マハラシュトラ州アムラワティ県カルホディ村
 受益者…184名(23世帯)
 井戸形式…ポンプ式(深さ140m)



水くみが近くなり仕事ができる

社会的弱者である少数民族や低カースト層の人たちが住む貧しい村です。農業や養鶏が生計の中心ですが現金収入が少ないため、男性は出稼ぎに行き、村の経済は女性が守らなければなりません。遠距離の井戸への水くみは非常に時間がかかり、労働時間を減らすことになり、低所得の村人たちは死活問題でした。経済面から家族を支え、子どもが教育を受けられる環境を作っている女性の自助グループが、この窮状を地区のNGOに訴え、ようやく井戸建設が実現しました。



未来を見据えて 40周年記念式典

アジア協会アジア友の会（JAFS）は、創立40周年を祝う記念式典を10月5日、大阪市中央区のつるやホールで催しました。写真。会員・関係者ら150名余りが出席して573名を永年表彰し、29組の方々に感謝状を贈呈。これまでJAFSの活動を支えてくださった皆さまに感謝を伝えるとともに、一同が、アジアの明るい未来へ向けて、よりいっそう新たな気持ちで取り組むことを誓い合いました。式典では、多くの来賓から、祝辞と励ましのお言葉をいただきました。日本キリスト教海外医療協力会（JOCIS）の畑野研太郎会長は「村上事務局長がJAFSを設立・発展させていくにあたり、『人とのつながり』を大切にし、人を活動に巻き込ませるプロフェッショナルである」。本会が長年加盟している関西NGO協議会の高橋美和子事務局長からは「JAFSが市民社会で果たしている役割は大きい」。大阪府国際課の大西秀紀課長は「行

573人を永年表彰。29組に感謝状

政とのパートナーシップや連携をとってくださり、行政側としても信頼しているNGOである」。外務省からは、「今後の日本のNGOのなかでも国際NGOとして活動が広がっていくことを期待しています」との祝辞をいただきました。JAFSには現在、個人と組織を合わせて約2200の会員がおり、うち550以上が20年以上にわたり、会員として支えてきています。こうした支えが大きな宝です。式典に参加できなかった皆さまからも「根気強く地道な活動に敬意を表します」「ワークキャンプではお世話になりました」「事務局に、海外からのインターンを受け入れ、訓練することも大事と思っています」「50周年への確かな一歩となりますように祈念します」などと、たくさんのメッセージをいただきました。改めまして、ありがとうございました。（JAFS事務局）

作文コンテスト佳作 牧 育美さん 同 小野 桃果さん 同 牟 玲さん 日本語スピーチコンテスト最優秀賞・観客賞 ドウイ・アグン・ヌグハラさん

JAFS創立40周年記念

JAFSは創立40周年を記念して作文コンテストを実施しました。審査の結果、近畿大学国際学部3回生の牧育美さん（大阪府箕面市）、慶応義塾大学法学部1回生の小野桃果さん（神奈川県川崎市）、応募当時は龍谷大学の留学生でその後、中国に帰国した大連外国語大学生、牟玲さん（遼寧省大連市）の3人を佳作に選び（優秀賞は該

当なし）、40周年記念式典で賞金各1万円と副賞（万年筆）を贈りました。作文の課題は「アジアの未来―私の提言」。全国16道都府県から86人の応募がありました。牧さんはアジアの発展途上国支援の方策として「自分で仕事を作り出すための教育」が必要だ、と記述。「将来はアジアの子どものために役立つ

ことをしたい」と話しました。小野さんはタイの日本企業の工場や大学を訪れた体験から、産業、教育、防災で日本の果たすべき役割を論じました。「高校生のときにアジアの人たちと出会い、アジアに目を向けねばと思いました」と話しました。牟玲さんは深刻化するプラスチックごみの海洋汚染問題について考察しました。JAFSは創立40周年を記念し、「日本語スピーチコンテスト」を初めて、9月29日に大阪市天王寺区のクレオ大阪中央で開催しました。審査の結果、インドネシア出身でエール学園国際ビジネス学科に在学するドウイ・アグン・ヌグハラさんを最優秀賞・観客賞に選びました。日本語を母語としない国・地域からの留学生（大学・専門学校・日本語学

JAFS創立40周年記念作文コンテスト 佳作

自分で仕事を作り出すための教育こそ必要

「アジアの未来―私の提言」

牧 育美

最近、アジアの時代が到来すると言う言葉をよく耳にする。特に東南アジ

ア、インドなどの西アジアは今後さらに発展すると言われている。その理由として、若年者の人口が多いということがあげられる。これは国を発展させ

るために必要な労働力、購買力が若年者にはあるからである。しかし、これらの国々はまだ発展途上国であり、水、食、医療、教育などのインフラが

整っていない地域もたくさんある。これらの状況を見ると、私は途上国が発展するにはまだまだ時間がかかるのではないかと考える。途上国の経済を発展させるには何よりもまずそこに住む人々が生きるために、さまざまな社会インフラの整備をする必要がある。多くの途上国が、経済的自立の壁にぶつかっている中、私たちはこうした社会インフラの整備を支援しなければならない。

支援と聞いて最初に考えるのは金銭や物資の提供だろう。たしかに1日わずかなお金で暮らす人たちにとってはこれらの援助は生きるために欠かせないものであるのには間違いない。しかし、私たちがどれだけお金や物資を提供したとしても、その場のぎであり経済の自立問題を解決することにはならない。

私が特に力を入れるべきだと考えるのは教育である。教育をするにあたって、読み書きや計算を教えることはもちろん欠かせない。国際協力でも雇用を生むことが良いとされ、教育に力を入れていくが、私はそれだけでは足りないと考えられる。なぜなら、学校を卒業しても必ずしも生徒たちが仕事を



大学で防災訓練をしたことがあるか問うた時、誰も挙手しなかった。「訓練という習慣がない。窓から一目散に逃げると思う」。口を揃えて平然と言う姿に愕然とした。フィリピンの地震が記憶にも新しいが、世界の自然災害の半数はここアジアで起きているという驚異の事実。もはや逃れられない災害にどう対応するか。アジア諸国でなござりしてきた陰に迅速に焦点を当てなければならぬ。日本の防災技術や意識は極めて高度なものである。防災

使い捨てをやめ、プラスチック輸出大国返上へ

「ペットボトル詰め替え自販機を」
牟 玲

プラスチックはとても軽くて、丈夫です。その長所が仇となり、回収や保管が不十分なまま膨大な量のプラスチックごみとなって、海へ流れ出ています。今や地球上で合計1億5000万トンが浮遊していると推定されています。毎年、世界の海に約800万トンのプラスチックが新たに流れ込んでいます。プラスチックは自然界ではほとんど分解されず、海洋を浮遊しながら紫外線などの影響により、細かく砕けて、大きざら5mm以下のマイクロプラスチックに分解され、有害物質を吸着しやすい性質を持ったまま、食物連鎖に組み込ま

れるとは限らないからである。つまり、自分で仕事を作り出すための教育が必要だと考える。彼らが仕事を作り出せば、次の世代を雇うこともできる。

最近経済発展が急速に進んでいる国の一つとしてルワンダをあげると、ルワンダ政府の政策は彼らの教育を「職

産業・教育・防災：日本の役割を海外で実感

「アジアの未来と私の提言」

小野 桃果

灼熱の太陽、漂うナンプラーの香り、飛び交う威勢の良い売り文句。日本とは種の異なる熱気、活気、血気。不十分だからこそ、至る所に商機が転がっている。バンコクに着いた瞬間、新興国の潮流を肌で感じた。

この十年間、日本のASEAN諸国に対する企業進出の勢いは凄まじい。製造業に留まらず枠を広げ、収益も好調である。一方で、労働賃金上昇や品質管理の問題が企業にのしかかる。最低賃金の引き上げに関しては、ファストファッションブランドを始めとする労働環境改善の面で有意義ともいえる。しかし品質の向上には、モラル意識の抜本的改革が不可欠だ。私は日本のパルプメーカーKITZのタイ工場に訪

表彰された牧育美さん（左）、小野桃果さん（右） 10月5日、大阪府中央区

の概念すら抱いていないアジアの朋友と、防災ネットワークづくりを早急に進める。世界の将来を担うアジアの明日を守るため最優先事項として動かなければ、未来は語れない。

産業、教育、防災。アジアに生きる我々がより高い質の未来を築くために三要素を取り上げた。量が質を持てば無限の力を発揮する。世界の総人口六割を占めるアジアは潜在能力の宝庫ではなからうか。宝の持ち腐れとならぬよう「陰と陽」両者から実情を捉え、

さがしのための勉強」から「自分で自分の仕事をつくるための勉強」に変えている。政府は、雇用は自らの中にあり、それが国を発展させるために必要なことだと彼らに伝えている。さらに、政府は若者が仕事をつくり出すのを手助けするため、職業訓練校の改革

れたのだが、日本より女性が働きやすいと伺い目を丸くした。ある女性は最終工程に配属され、信頼されていることが誇らしいと笑顔を見せた。依然として腐敗度の高いアジア諸国で、日本企業が従業員を手厚く支え意識向上を牽引して行く。安いから低品質。こうした偏見を払拭する原動力を先進国企業が秘めていると思えてならない。

ネオンが眩しいバンコクの中心街を抜け、アユタヤに向かった。未舗装の道路に車が揺れだし、突然怪しげな雰囲気か漂う。片腕の少年が車窓越しにお金を求めてくる。同じ国とは思えない情景に言葉を失った。これがまさに大使が語気を強めた貧富の格差、「陰と陽」だと感じた。一見華やかなタイには世界一とも報じられる貧困格差が潜む。この格差は、日本の将来像になりうると危惧すべきだ。すでに日本は先進国最悪レベルの貧困率を抱えてお

アジアの掲げる理想像を緻密に描き、広く共有することが急務だ。二国間だけでなく、マルチな枠組みで連携せねばならない。現在RCEP（東アジア地域包括的経済連携）の交渉が盛んに行われているが、より実働的な策が求められる。さらにそれらを政府間のみならず民間団体や市民間に波及させ、皆で陰にも光を当てていきたい。東京五輪を控え日本は存在感を増す。アジアの課題に先立って取り組む姿は、世界の鏡となるはずだ。

子供たちが泳いでいます。

韓国は2019年1月、大型スーパーでのレジ袋使用を法律で禁止し、ベトナムは自然分解するレジ袋を除き、袋の量に応じた課税を始めています。日本はプラスチックの生産量が世界第3位、一人当たりのプラスチック容器ごみの廃棄量では、アメリカに次いで世界第2位という「プラスチック大国」なのです。国内での年間流通レジ袋は400億枚、一人当たり一日約1枚、ペットボトルは227億本に達し、一人当たり189本、二日に1本の消費です。

日本はプラスチックの全体量を減らしながら、技術革新による代替素材の開発

やファンドの設立などの政策を実施している。これらの政策をアジアの発展途上国も取り入れるべきである。雇用の機会が生まれるのをただ待っているだけでなく、自分で仕事をつくり出すことで経済が自立し、アジアはさらに飛躍するだろうと考える。

り、少子化の一途を辿っている。さらに日本と同等の出生率であるタイでは、少子化ゆえに移民の問題も山積みで、いずれ日本もその壁に直面するだろう。貧困が理由で出産できないことも多い。悪循環を根絶する上で有力とされるのが教育支援である。東南アジア諸国では義務教育の期間拡充により、幅広い階層の子供が学習機会を得つつある。だが、財源不足により地方間における質の格差は残存している。各地域が力を入れる産業分野を見極めた上で、どの教育課程を重視するか考慮する必要があると思う。日本は他国の貧困実態を前例として学ぶと同時に、100%に近い高校進学率を支える仕組みを共有する。決して他人事ではない貧困問題の解決策を、半学半教をもって模索せねばならない。

そして近年、貧困に加えて生命を脅かすのが自然災害である。私がタイの

で問題を解決しようとしています。

近年、東アジア諸国ではプラスチック輸出大国に対しての非難が高まっています。2017年末に中国はプラスチックの原則輸入禁止、2019年にフィリピンはカナダからのごみ輸送船の入港拒否、マレーシアは日本などへ不法ごみの送り返しを発表し、インドネシアは6月にプラスチックをアメリカに送り返し、大統領はG20大阪の最中に、「先進国のごみ捨て場ではない。輸入を禁止する。」と述べました。

今年6月のG20大阪サミットでは、世界の共通ビジョンとして、日本と相互協力しながら、2050年までに海洋プラスチックによる汚染をゼロにまで削減するという「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を共有しました。

私たちはこのような深刻な大問題をどう解決すべきでしょうか。国家レベルではプラスチックの回収の予算化、諸外国への経済援助・技術援助など。自治体や企業レベルでは、海浜の清掃ボランティア活動、レジ袋の有料化、ストロークの紙製品への転換等がすでに提言されています。

私は新たに次のことを提言します。先述のように、日本ではペットボトルを一人で二日に1本消費しています。そこでペットボトルを1回限りで捨けないで、洗浄後にマイボトルとして自動販売機に持って行き、コインを投入して、詰め替えてもらうのです。5回使

つて6回目に捨てるなら、全世界でペ
ットボトルごみは50%減るのです。企
業には現在の自販機を改良したり、現

行自販機の横に新自販機を併置したり
してもらおうのです。料金、衛生面、補充
体制等の課題は順次、解決していきま

しょう。そうすれば、ペットボトルの使
い捨てが激減し、海洋プラスチック汚染
口化にも大きく貢献できるのです。

から努力しても、もし効率が悪けれ
ば、成功する可能性は低いでしょう。
そのため日本人が時間に対して非常に
厳しく、有効活用するようになったの
だと思っています。

日本語スピーチコンテスト 最優秀賞・観客賞

降って来ない成功を努力でつかんだ日本人



日本語スピーチコンテストの出場者たち。右から2
人目がヌグラハさん=9月29日、大阪市天王寺区

Dwi Agung Nugraha (ドワイ・ア
グン・ヌグラハ) インドネシア出
身、エール学園 国際ビジネス学科
みなさんこんにちは。これからは
「成功は空から降って来ない」とい
うテーマでスピーチをさせていただき
たいと思っています。どうぞよろしく
お願いいたします。

ここにいらつしやる皆さんは、日本
の技術製品を使用したことがない方は
いらつしやらないでしょう。日本は面
積がインドネシアの5分の1の大きさ
なのに、経済力は世界で3番目です。
どうしてこんなにも発展できたのでし
ょうか。これに対して私なりの考えを
今から述べたいと思います。
ある日、ある友人が私に「ねえねえ
アグン、知ってる？ 日本人でさ、生
まれた時から天才だから、日本は発展
したんだよ」と言いました。ですが私
は、「んーいや、日本人全員が天才と
して生まれてきたわけではない」と思

っています。なぜならインドネシア
のことわざ「Kesuksesan itu tidak
jatuh dari langit」というものがあり
ます。日本語に翻訳すると、「成功は
空から降って来ない」となり、これ
は「成功の裏には必ず努力がある」を
意味します。私は、日本人が生まれな
がらにして天才なのではなく、このこ
とわざのように努力をして日本を発展
させたのではないかと推測しました。
2017年に私は日本に来て初めて、
日本人の成功には2つの理由があるこ
とに気づきました。1つ目は、日本人
は仕事の際には常に一生懸命努力しな
がら働いているということです。そし
て2番目は、日本人は時間を非常に大
切にしているということです。子ども
のころ私は親に、「アグン、勝つか負
けるかより、努力が一番だ」と教えら
れました。日本人はまさにその言葉の
通りに、全力を尽くして努力していま
す。とは言い、いくら頑張っても、い

また日本人は子どもの頃から、よく
親に「早く寝なさい！ 早く勉強しな
さい！」など、「早く」とよく言われ
ているようです。そのような経験を通
して、日本人は時間を有効的に使える
ようになったのでしよう。皆さん、
今、「成功は空から降って来ない」とい
うことわざを、先程の日本人の例
と共に理解できたのではないでしょ
うか。とはいえ私も、「あーあ、成功は
空から降ってくればいいのに」と思い
ながら、私はこのスピーチを成功させ
るために、たくさん努力をしてしま
した。なので私は、今回のこの努力を
糧にして、これからも努力を怠らず、
成功をつかみに行きたいと思っていま
す。以上これで私のスピーチを終わら
せていただきます。皆さんもぜひ、な
ぜ日本人がここまで成功できたのか
を、考えてみてください。

私は元々、プロパンガス商
社・岩谷産業(株)のセールスエ
ンジニアでしたが、2006
年に58歳で起業を目指して退
職し、繋がりがあった水事業
の会社ウォーターネットに営
業本部長として勤めさせてい
ただきました。さらに富士山
の天然水を「プレミアムウオ
ーター」として販売する会社
を設立しました。

株式会社エムピ

その後、東大寺のご住職が
カンボジアで井戸を500基
寄贈し、不衛生な水で命を落
とす多くの人を救っているこ
とを知り、NPO・NGOを
通じてカンボジアへの井戸支
援を始めました。15年2月に
私の名前である松浦のMとP
キングのPから命名して(株)
エムピを創立。現在、井戸建
設の資金源となるコインパー

キングの運営を
始め、天然水販
売や天然水事業
に関するコンサ
ルティングを行
っております。
今後とも水を
通じて社会貢献
していきたいと
願っております。

「得る喜びより喜んでもらう幸せ」を实践

●大阪松下幸之助経営を学ぶPHP友の会

全国PHP友の会の拠点の
ひとつとして2014年9月
に発足しました。現在6年目
のフレッシュな経営者友の会
で会員は31名です。月例定例
会を、大阪市内の上本町や梅
田界隈で開催しております。
JAFSとご縁は、既に
全国PHP友の会では募金な
どがありますが、私(高木)
が18年9月に大阪国際ユース

ホステルで行われたJAFS
地区世話人研修会で会員拡大
についてお話をさせて頂いた
いた折に、JAFSの社会貢
献活動や会員の皆様の交流状
況などを知ったことが大きな
きっかけです。私どもの会と
交流を活発化し、社会貢献そ
の他の分野で共に学び成長し
ていければと考え、この度入
会させて頂きました。

*PHPとは、
Peace and Happiness
through Prosperity
の略で「物心と
もに豊かな繁栄
によって真の平
和と幸福を実現
していきたい」
との願いから、
松下幸之助が創
設しました。



大阪府泉佐野市
南中安松 1119-1-903
☎ 090-6061-4129
会長：高木孝一

企業や労働組合、各種団体は、それぞれの理念に基づいて活動していますが、
いろいろな形で社会の役に立ちたいという気持ちは私たちと同じです。アジア協
会アジア友の会の理念にご賛同、ご協力くださっている法人会員を紹介します。

新・The 社会貢献

コインパーキングでカンボジアへ井戸支援



岐阜市下土居2-13-1
☎ 058-231-9233
社長：松浦 正

われら JAFS の仲間たち



バザーや缶で ネパールに学校

富田林地区会

JAFSのアジア支援に協力すべく大阪府の富田林地区会では、地域に見合った活動を展開しています。
例えば、古着、雑貨などをバザーで販売したり、アルミ缶収集で得た収益をJAFSを通じ、ネパールでの学校建設資金に充てていただいています。既に4校寄贈しました。また日本三不動の一つで「眼の神様」として信仰される「滝谷不動尊」では、毎月28日の縁日でバザーを行っています。

アルミ缶は、自宅に収集袋を用意し、近隣の方々が持ち寄りくださったものを業者に買っていたのですが、なかなか住民の理解が得られず戸惑う地域に定着しておりとても感謝しています。アルミ缶の価格は変動幅が大きいです。安い時は1kgで40円ですが、高い時は1kgで140円です。1kgは350cc缶で約70個に相当します。「塵も積もれば山となる」の精神で頑張っています。さらに夏には里山で焼肉パーティを楽しんだり、冬は大阪最高峰の金剛山

JAFS第8エリア

チャリティ イベント25年

JAFS第8エリアは、政令都市の大阪府堺市を始め南海本線沿いの泉南の市町村にまたがる広い地域である。25年前から、会員や世話人を始め、各種イベントを積極的に企画実施してきた。近年、組織・会員数など弱体化・減少してきたが、それでも誇れる継続イベントや支援がある。

①新春チャリティー小品展 地域の画廊で21年間継続している。オーナーの北野さんがJAFSの理念に共感され、アジア子供絵画展から始まり、作家の作品の販売で多額の寄付をいただいている。②サマーチャリティーギターコンサートⅡ写真 会員の田口吉三さんのギター教室の発表会にミニバザーなどで参加している。コンサートは無料ながら善意の募金がある。11年継続。③佐藤手芸教室のバザー 毎月第一日曜の高石市のフリーマーケットに参加。15年以上継続。

これらからの寄付金は主としてネパールの井戸建設、バイオガスパラント、看護師の奨学金などに供されてきた。過去にはインドの学校修復、フィリピン台風被災支援などで1500、300名参加の大イベントを数回実施してきたが、昨今、高齢化が進み昔ほど企画・推進力が無い。老若男女世代のバランスや企画の取捨選択を考慮して活動を進めていきたい。

(高石地区世話人 佐藤 満昭)

を登山して、会員の親睦を図り交流を深めています。また富田林の地の利を活かし、重要文化財として観光地でもある寺内町で毎春開かれる「寺内町ひなめぐり」(江戸末期から明治初期の珍しい雛人形)を、旧家の街並みを会員と歩きながら楽しんでいます。これからも皆さんと協力しながら無理なく活動をしていきたいと願っています。引き続き応援よろしくお願ひします。(富田林地区代表 沖田 哲男)

参加することがボランティア



大阪府の枚方地区会では、枚方在住の会員75名から成りたっています。ひらかた市民活動支援センター(旧NPOセンター)に団体登録して17年になります。
本部活動への参加の他、枚方地区会独自でどなたでも参加できる活動を行っています。「どうすいの会」や「テイクアウト」ではスタディツアーやワークキャンプに参加した会員の方を招いて、アジアの現在の様子や、JAFSのアジアでの活動状況を聞きます。その参加費と経費の差額や、枚方まつり、ひらかたNPOフェスタ等の模範店参加からの収益を積み立て、今までにネパール3基、スリランカ1基、ミャンマー1基、ラオス1基と、6基の井戸を贈りました。ただ今、7基目のネパールの井戸(パイプライン&集水タンク)に向けて積み立て中です。
また以前から相互に協力している寝屋川地区会との共同企画で、地元の魅力を再発見できる「寝屋川・枚方ウォークソン」も行っていきます。
「参加することがボランティア」を合言葉に、これからも一人でも多くの方に参加してもらえるように、魅力のある楽しい催しを企画していきたいと思っています。

(枚方地区世話人 天野 由紀代)

枚方地区会

JAFS第6エリア

地区の父の遺志継ぎ活動発展

では、『JAFS西宮どうすいの会』と名乗り、西宮国際交流デーや西宮中央教会のバザーに毎年参加しています。外国人をゲストスピーカーに招いての「どうすいの会」、外国人の男性を講師にしての「おとこの料理教室」や多数の外国人と一般参加者が交流を図る「アジアンパーティ」を開催し、チャリティコンサートも何回も開いてきました。並行し、「じゃふしあん」という活動報告を30号まで発行しました。

井戸を贈ることを活動の目的とし、9基の井戸をアジア各地に届けることができました。
ただし、近年は諸事情で活動への参加が困難になる会員が続き、単独でのイベント開催が困難になり、神戸や芦屋地区の会員と相互に協力して活動を続けています。

立ち上げ当初から地区活動の中心であり父親のような存在であった岡田昂さん(Ⅱ写真中央)が9月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りすると同時に、岡田さんの意思を継いで、地区活動を継続・再発展していかなければ、思いを新たにしております。

(西宮地区世話人 平山 隆史)



第6エリアの神戸・芦屋・西宮地区では、1995年1月に神戸で初めてのどうすいの会が開かれました。しかし、その翌週の大震災により神戸での継続がいきなり困難に。1年半後に西宮で後を継ぎ、どうすいの会を再び開くことができたのです。

その後、私が参加してきた西宮地区



国内外の様々なイベントをHPに載せています。記事についてのお問い合わせはJAFSへ。裏表紙にアドレス、連絡先



多様性交流めざし「カラフルまつばら」

日本に暮らす外国人が270万人を超え、大阪府松原市でも、多くの人が共に暮らしています。今後一層の国際化が進むことが予想されます。これまでのJAFS地区活動に加え、松原在住の外国にルーツを持つ人々と互いの文化を尊重しながら学び合い、交流し合える場、さらに悩みなどを相談し合える場づくりに取り組んでいきたいという考えに至りました。

市内の小・中学校の先生に協力いただき、外国にルーツのある生徒や保護者の存在や様子を知ることから始めました。昨年6月には私たち自身が学び考える場として、外国にルーツのある保護者から聞き取りの会を行い、集まった方々に呼びかけました。8月に交流の場づくりのための実行委員会を開き、「どんなことで困っているか」「どんな場にすればよいか」などについて話し合い「カラフルまつばら」がスタートしました。

10月に開いた第1回交流会「写真」は、50名を超す参加の中、4人のゲストのリレーメッセージから始まり、様々な立場のお話を伺い、後半はグループに分かれて体験や日常のことまで話が盛り上がりました。改めて、松原市が多様性に富んでいることを実感しました。

外国にルーツのある人々にとってホ



力したいと、コンサート開催を名乗りでた次第です。

瀬田さんのダイナミックで華麗なピアノに、日本にいることを忘れ、シヨパンの生地ワルシヤワに導いて

くださっている感覚に陥りました。感動に酔いしれながら、ポーランドを近々、訪れたいと思いました。

(河内長野アジア友の会 新谷 百代)

みんなで出展 きずな深めた

9月28・29日の2日間、東京・お台場で恒例の「グローバルフェスタJAFS」が開かれ、飲食と展示のブースを出展することができました。写真。私自身、このフェスタの担当をするのが2年ぶりでしたが、食材や道具類、出展に向けた本部とのやりとりなど当日に向けての準備や、ブン・スウオン(ベトナム麺)、チャイ、アジア各国の品々の販売などをみんなで協力して行うことで、誰もがグローバル



エスタの出展について理解し、JAFS関東の絆をさらに深めることができました。

JAFS関東のメンバーは少数ですが、それぞれが自分の時間を使い協力して準備し、1つのイベントを成功させる精鋭揃いだと思います。そういうメンバーでいられることを誇りに思います。

(JAFS関東会員 小島学)

天気にも恵まれ チャリティー バザール

夏の暑さのままの9月1日、大阪府大東市のJR住道駅・北側デッキ広場で、大東市の後援を得てJAFS主催



のチャリティーバザールを開催しました。写真は、開始は10時からですが、スタッフは8時前後に全員集合、会場の設営を開始しました。当日は、お天気にも恵まれました。

ステージの設営、屋台の準備。それに出演・出展をいただいた関係者が準備し、予定通り10時に開始しました。

開始直後は、駅のデッキでもあり、駅へ直行する人が多数でしたが、昼前には、ブースに立ち寄る人が増え、ポンセン・シフォンケーキ・おうどんなども売れ始めました。でも、やはり一番売れ行き好調なのはお酒類でした。

出演者の演じる懐かしい口笛、三味線、民謡などを聞きながら、それとなく立ち寄った人たちと一緒に楽しいひと時を過ごしました。

(JAFS会員 伊藤勝)

SDGs達成へ協働フェスタ



とする居場所となり、互いの文化を学び、交流し協力し合うことで、すべての人が住みよい明日の松原を一緒に築いていけることを願っています。

(松原地区世話人 橋本末子)

第15回NPO協働フェスタが9月22日、大阪府の高槻市立生涯学習センターで開かれました。台風接近で気をもみましたが、お天気が持ちこたえ、会場前には手作り市が並びました。ステージでは、子どもたちの歓声に包まれて高槻のマスケットキャラ・はにたんが登場!! 大阪医科大学看護学部の学生さんの「ミニ町の保健室」など初参加のブースが増え、市民の交流が一段と厚みを増した印象でした。

JAFS高槻は活動展示コーナー

瀬田敦子さんが コンサート

JAFS40周年記念の一貫として大阪府の河内長野アジア友の会が11月29日、河内長野市立文化会館にて瀬田敦子チャリティーコンサートを開催しました。

瀬田さん「写真」は現在ポーランド在住のピアニストで、同国シユタブノズルイ市名誉市民。里子を5人支援されているほか、里子支援のためのチャリティーコンサートを、帰国に合わせて20年以上続けています。今回は河内長野アジア友の会が、少しでも支援に協

今回のテーマは「みんなで創ろう未来のたかつき」。ミッシヨンの違う団体が手を取り合い、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の「誰ひとりとして取り残さない社会を」に向かい進んでいこうとする姿勢は、JAFSの活動そのものでした。

(JAFS理事 齋藤かおる)



バザールカフェで JAFSをPR

11月23日、京都市のバザール・カフェ館内や庭を会場にして「バザールフェスタ2019」が開かれました。写真。「様々な思い、活動、人が集い楽しむ日」として12回目を迎えたお祭りです。JAFS京都地区として出展し、活動紹介と、シュトーレンなどの焼き菓子とポトフの販売をしました。会員の福井さんがつくった焼き菓子は大人気で完売!! 天候にも恵まれました。多くの出会いがあり、アジア協会の広報に努め、また支援金の協力を得ることができました。

(京都地区世話人 柳井一郎)

新入会員ご紹介

ご入会感謝申し上げます。(敬称略・50音順)
2019年9月1日～11月30日

- 維持会員
川那辺操／谷口ちゑ子／Terestage Suga／船越健司／向出純子／鞭和夫

- ジュニア会員
上田愛瑠
- 里親会員
梅本仁美／谷口ちゑ子／三好一雄
寺林公子

会費納入者、寄付・物品協力者

温かいご支援ありがとうございます。(敬称略・50音順)

2019年9月1日～11月30日

なお夏季・冬季募金へご協力くださった方につきましては、
1年後の夏季・冬季に別紙で報告させていただきます。

- 社員会費
池田直樹／井上勇一／内山宏／大本和子／岡本圭司／小原純子／小原孝彦／白方誠彌／寺西浩章／中嶋啓子／ナリンダーシンセイ／服部道代／平瀬勢丈／松浦正／松原正

●維持会費

- 秋山タカ子／上城戸清隆／浅尾佐江子／安宅義人／石若達弥／市川秀一／伊藤義人／井上公男／井上邦子／井上周三／岩坪小夜子／上田慎子／植田延江／宇田喜美子／宇野和子／岡本就介／小川知佳／沖田哲男／小野孝博／片岡伸介／加藤洋／壁谷桂子／河合忠和／河口正隆／川副竹善／川那辺操／北村真澄／木下四朗／久留須眞由美／小菅八郎／小山明／佐藤高／佐藤根恵美／澤村和子／品木吉明／白國哲司／杉本牧子／鈴木浩／高橋未央／辰巳桂子／谷口ちゑ子／谷山祐子／玉木町子

- ／田村京子／辻井昌子／出口和子／Terestage Suga／戸田恭子／富永たけ／永江敦子／中尾和子／中橋康治・真由美／永原幹男／中山康夫／野井洋正／乗田昌司／橋本芳樹／島山基／畑中義雄／原田佳子／廣田恵美／福岡仁／福西礼子／藤田高淳／船越健司／古谷佳世子／堀内眞弓／前田恵／前田安太郎／松本佳成／三島明美／水ノ上成彰／溝口治／水城実／宮野京子／向井宏之／向出純子／武藤三代子／宗形充弘／安田勝／矢野浩美／山地尚枝／湯浅積也／吉田敬市／吉田樹史／吉田元比古

●賛助会費

- 秋元千佳／足立暁／安藤幹雄／生駒晴代／石田功夫／石山光子／市川晃／伊東明子／伊藤恵理／岩岡幸衣／岩岡美佐子／鶴崎卓／大塩節子／岡光子／小笠原達治／岡田能里子／岡本眞理子

- アジア・子ども支援
大和ハウス工業(株)／㈱テーブルクロス／松尾慶治／饒平名知幸／渡邊瑠璃子

- インドネシア植林支援
イオンリテールワークーズユニオン

- インド・H・V子どもと家族支援会費
苗村登美子

- インド・パダトラ小学校支援
有山京子／石原基義／伊藤勝／上田愛瑠／沖田哲男／沖田文明／佐藤高／新谷百代／高奎好治／巽正憲／福岡名津子／法花敏郎／村上和範／村上公彦／山下良一／山田訓子／渡辺治彦／渡邊瑠璃子／ドリアンブランニング

- 中国教育医療支援
渡辺治彦

- コスモニケタン指定寄付
二反田静子

- スリランカ・サルボダヤ支援会費
實清隆

- スリランカ・サルボダヤ支援
渡辺治彦

- チャイルドアカデミー指定寄付
因幡明洋／大阪府立三島高等学校国際交流部

- ネパール・バイオガス寄付
設楽宏幸

- ネパール・ピトゥリ支援会費
小川幸子／倉光之和／小松朱美／前田美津代／前田豊／宮本博幸

- ネパール・地域医療支援
渡辺治彦

- 沖野雅一／越智和子／小原俊之／角谷道子／片田欣三／加藤朝子／加藤紀子／鎌田重明／神谷尚孝／岸野亮淳／喜多榮子／北野与志江／北原祐司／木村直子／木村征代／際本多市／久保真太郎／倉知里美／黒木昭子／孝橋裕美／小高静／後藤安子／後藤泰子／後藤理紗／小西紀代美／斉田眞理子／佐々木健児／ゆみ子／三本松三津江／清水美知子／庄子幸子／新羅和子／菅洋子／鈴木通文／瀬戸井初恵／相馬隆人／田尾茂・ますよ／高澤美貴／田中貴美子／田中啓／谷山美和子／堤祐子／寺林公子／富田修／友松千草／永井勝也／中川由美／中川亮／中谷良二／中野通／中村滋／西川久美子／二野英子／長谷川美穂子／花崎能理子／馬場順子／細喜世多／林八重子／林祐一／原響子／平林佳江子／福岡陽子／藤原朗／舟崎和誠／堀内登久子／松居安佐子／佐野富栄／松田和子／松本沙耶香／三重野哲／三木あゆ子／皆笹信二／宮本益見／三好和香子／村上五郎／森原尚子／安富陸／八束庸子／山口淳／山田潤子／山本宏昭／行廣眞紀／横田健／吉岡久江／若林茂美

- ジュニア会費
上田愛瑠

●団体会費

- アジア子供支援フジワーク基金／大阪西野田教会(株)クオリティデザイン／パナソニックデバイス労働組合／枚方・交野国際奉仕活動協会

●法人賛助会費

- (株)ウォーターネット／子どもの平和と生存のための児童館基金／武田病院グループ／日本労働組合総連合会大阪府連合会／パナソニック(株)CSR文化部

●里親会費

- ／神谷尚孝／河内長野市国際交流協会／川西秀樹／岸本玲子／北道子／北畑哲治／北村真澄／木下良子／木村千鶴／葛谷友子(株)クレコス(株)グローアップ／小出裕司／河野直子／齋藤公代／坂口久代／澤村和子(株)三愛コスモス／設楽宏幸／泷江理香／島田恒／JAFS歌声サロン／高岸泰子／白神博子／菅洋子／瀬川真平(株)創栄社／高澤美貴／高瀬規佐江／高橋みわこ／武生伸子／田中壽美子／田中久雄／田邊眞裕／JAFS旅人(医)天神山古賀眼科(株)ツールオカフジ／辻賢二／辻澄子／富田修／中川寛子／中野為夫・桂子／中山康夫／奈蔵知子／西川京子／(有)西田興産／西村節子／西川美和子／西本悦子(公社)日本キリスト教海外医療協力会／寢屋川教会／特別養護老人ホーム寢屋川十字の園／JAFSパラト会／畑野研太郎／島平恵子／服部真／パナソニックグループ労働組合連合会／濱口みどり／早崎鉄也／原田和幸／東野俊之(株)ビケンテック／枚方・交野国際奉仕活動協会／平野千晴／廣田恵美子／福岡名津子／福澤邦治／福西礼子／藤原伊津子／藤原正昭／古山陽一／本多礼子／前澤良子／前田みどり／真嶋克成／佐野富栄／松田静雄／松野光伸／丸井和子／水谷惣一／三田村英宗／三林寿子／宮本健一／宮本照佳／宗像千代子／森崎律子／森本匡昭／森本有紹／矢賀繁之／山田和広／山田穂積／山田不動産(株)／山野和子／山本晴子／湯浅洋子／ユニチカ労働組合／吉田俊朗／饒平名知幸／連合大阪／脇家崇夫／渡辺治彦／渡邊瑠璃子／匿名希望26名

- 物品・日用品・食料品等寄贈
阿部委功子／天野澄子／井上寧子／宇都かおる／大澤淑／大本和子／木内寛子／くぼりクリニック／下久保恵子／新茨木ボランティア友の会／仁義千春／新谷広美／杉野佳代／高橋美也子

- アジア子供支援フジワーク基金／飯嶋朝子／飯田哲雄／伊佐地光寿／石神慧美子／石神誠／伊藤恵理／岩岡幸衣／梅田祥仁／大須賀不出子／大塚恵子／大原映子／大本和子／岡光子／岡田能里子／小川誠／越智和子／角谷道子／笠谷 寿美／加藤朝子／鎌田勝江／鎌田重明／神本 文子／北野与志江／北畑哲治／北村晏一／木村征代／日下早衛子／児下美恵／小高静／後藤三津枝／阪本美代子／佐藤理香／佐山早苗／竺原恵美子／JAFS関東／白神博子／瀬戸井初恵／田尾茂・ますよ／高瀬稔彦／高田禎子／武内彩／竹田由美子／田中壽美子／谷村 信彦／谷山美和子／筒井利弘／富松英二／中川亮／中崎 雄也／中橋康治・真由美／中山忠愛／根津千枝子／野井洋正／長谷川雅子／長谷川美穂子／細喜世多／原響子／福岡陽子／福田忠明／藤原克彦／増田愛子／松原第三中学校1年1組／松村加奈理／水野礼子／三好一雄／三好和香子／武藤三代子／武藤祐介／森下正志／森田光子／山下由起／山田潤子／吉田幸子／吉田聡子／吉田暢子／吉田宏／和田幸子／渡部高明

- 一般寄付
熱田親憲／雨森由美／池田直樹／伊奈徹／小原純子／関西ナショナル・トラスト協会／桑村壽子／櫻井紘哉／篠原勝弘／正法地浩／ソフトバンクつながる募金／土屋菊男／寺西浩章／富松英二／ナモナキピリオネラ／橋羽和樹／藤原登志子／藤原正昭／藤原増子／眞砂哲志／村上公彦／森本榮三／山口淳／ReShop KANAU／脇家崇夫

●井戸積立

- (学)清風学園／JAFSぞうすいの会

●井戸建設支援

- カンボジア
イオングループ労働組合連合会／濱口

- 宸也／村上聡代
- スリランカ
米田明正
- フィリピン
京セラ労働組合本部／京都暁星高等学校／釜下金郎

- ネパール
京都暁星高等学校
- バングラデシュ
新保崇浩

●アジア・ネットワーク奨学会費

- 上野孝一／村上公彦
- アジア・フレンドシップ募金寄付
AFSインドグループ／AFSネパール／AFSソルゴン／募金支援会／AFSロナラ

●アジア・ユースサミット寄付

- 富松英二／(有)西田興産
- アジア・ネットワークセミナー寄付
アイビー歌声サロン／穂山常男／天野貞男／天野澄子／有山京子／幾谷眞規子／伊藤エリサ／小川富／沖田哲男／小原純子／柿島裕／栢下壽／川西秀樹／江夏博美／古賀旭／小柳二郎／金剛一智／坂口久代／櫻井紘哉／佐藤正明・関子(株)三愛コスモス／JAFS歌声サロン／新谷百代／大仁孝太郎／高澤美貴／田中久雄／JAFS旅人／藤間孝子／豊田祥二／中島ヒロ子／中村正憲／西田貞之／JAFSパラト会／橋本隆／長谷川千衣／島山ひろみ／福岡名津子／福西宗子／藤原克彦／古川光照／古山陽一／法花敏郎／的場義恵／村上公彦／毛利吉男／森本榮三／山口かをる／吉田清史／吉田暢子／若元良嗣／渡辺治彦

**書き損じハガキ寄贈
お願いします**

年賀状の残りなど、書き損じハガキをお持ちでしたら、ご寄贈をお願いします。郵便局にてハガキに交換し、地域イベントの案内を送るなど支援の輪を拡げるために使わせていただきます。

<送り先>
〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14
肥後橋官報ビル5階
アジア協会アジア友の会 宛

里子の笑顔

勉強したくても経済的な理由で学校に行けない、進学を断たれる。アジア協会ではそんなアジアの子どもたちを里親制度で支えています。今回はインドの里子の生活をお伝えします。

「アジア里親の会」里親募集

- 対象国はインド、カンボジア、ネパール、バングラデシュ、フィリピンです
- 会費は里子1人年額20,000円。複数も可です
- 里親には、里子の写真や成長記録をお届けします

水・食事が足りなくても夢にチャレンジ

ダイワント・コラカル君は日印友好学園コスモニケタンの10年生（日本の中学3年生に当たる）です。学校から10km以上離れた村からスクールバスで通学しています。父は日雇いの農夫として働いていますが、ここ数年、雨期にも雨が降らないことが多く植え付けができず、農場での仕事がないことも多くなっています。そんな時は同じく日雇い労働者の母と、牛飼いの仕事に行きますが、収入が少ないので食事



を十分にとれない日もよくあります。家には水道やトイレなど生活に必要な設備は何もありません。登校前に、父の手伝いをするのと村の共同露天井戸に水くみに行くのが彼の仕事でしたが、雨がほとんど降らないため井戸は干上がっています。週に2回給水車が来ることになっていますが、その給水車が来ないこともあり、生活に必要な水を十分に得られないことで家族は今とても困っています。

そんな中でも、今はコスモニケタンでの最終学年で、春には中学校修了試験があるので、今年はチャレンジの年にしたと勉強に励んでいます。彼はいい成績で試験をパスして高校に行き、将来は警察官になるという夢の実現に近づきたいと思っています。里親さんのご支援で今まで学び続けてこられたことを、本当に感謝しています。（編集スタッフ 大本和子）

アジアの友から

AFSバングラデシュ
ゴータム・ブッダ・モンダル



首都ダッカで「The Daily Samakal Dhaka」という新聞社のオンラインニュースの編集者をしています。このマスコミの仕事を通して、バングラデシュの抱える様々な社会問題、コミュニティ・労働権・インド国境・難民・HIV/AIDSなど目のあたりに行っていました。貧困で苦しんでいる人たちに自国の者として何かしなければという思いを持ち、取材したことを書籍にして出版、より多くの人にこの現状を知ってもらいたいと願っていました。

「教育で貧困なくせ」新聞社から発信

落ち着いた穏やかな雰囲気の中にユニークさを持ち、今後バングラデシュの活動を牽引してくれることを期待する新メンバーです。（JAFS事務局）

たのですが、売電期間が10年に達した家庭から順次終了。わが家も2020年4月で終了します。私は買ってもらえなくとも、わが家の太陽光発電所から少しでも自然エネルギーを電力網に供給し続けたいと思っているのですが、他の選択肢として、リチウムイオン蓄電池に余剰電力を貯めておいて自分の家で使うという方法もあります。ノーベル化学賞の研究成果を使うのと、どちらが良いかと少し迷いますが、わが家の場合、家計および蓄電池を生産流通する環境負荷を考えると、蓄電池の導入はしないでおこうと思います。燃料電池エネファームも設置し自家発電しており、夜はその電気もあるので蓄電した電気の使い道があまりなく、またエコとは言え設備だらけにもなるので。将来的に電気自動車を持つことになれば、太陽光発電の電気で充電できるなどは思っています。

でも新規にお考えの方にとっては、太陽光発電と蓄電池セットでの自家発電は良いと思います。両者とも価格が下がってきていますし、初期投資は要しますが、その後は電気を買わずに自然エネルギーからの自家製電気だけで暮らせるかもしれません。一度、発電見込量と消費電力量、導入費用と今お支払いの電気代などシミュレーションしてみられてはいかがでしょうか。

(JAFSスタッフ 川本 裕子)

環境コラム

リチウムイオン電池

ノーベル化学賞が、リチウムイオン電池を開発した吉野彰氏に授与されました。近年の革新的なIT進化を支えてきたのがリチウムイオン電池であったことが改めて紹介され、偉大な研究業績を身近に感じた方も多かったと思います。また太陽や風など自然エネルギーによる発電量が天候により変化し電気を安定供給できない欠点に対して、リチウムイオン蓄電池を使うことで発電量の変動を平準化でき、二酸化炭素を出さない自然エネルギー発電の利用が進むと期待されています。

私も家庭での太陽光発電の余剰電力買取制度が始まった初年度2010年4月に、太陽光発電を始めました。太陽のおかげで明るい昼があり、温かくなり、風が起り、雲がわき、雨が降り、水も得られる。動植物も育つ。人間はもともと太陽のすばらしい恵みを受けて生きてきたわけですが、現代にあっては、太陽の恵みを電気に変えて受けられもします。温かい太陽で冷やすこともできます。温暖化の今、夏のクーラーの必要性は高まっていますが、太陽による暑さを太陽による電気ですまることができ、他のエネルギーを使わず自己完結できるのです。夏の昼にクーラーをかけた家

にいますと、これを実感して少し安心します。この余剰電力高額買取が、2019年11月から終了に向かいました。買電よりも高額で売電できてい

40周年記念誌あります

JAFS創立40周年を記念して、40年間の歩みを1冊にまとめた記念誌を作成しました。当会活動の歴史と全容を知っていただける内容です。ご希望の方にはお送りいたしますので、ご連絡ください。TEL: 06-6444-0587 FAX: 06-6444-0581 E-mail: asia@jafs.or.jp

編集後記

緒 方貞子さん、中村哲さんという日本の国際協力の先人は令和の時代を天からどのように見ておられるのか。平和の世のために、沢山の宿題を新しい年に一つでも多く実現しよう。（典）

新 しい年を迎え、令和初のお正月です。新しい心を持ち、初心に帰り、恵まれない子どもたちに対する支援の輪を広めようではありませんか。子どもの気持ちになつて考える一年でありま

すように。（金）

戦 争で失われる命あり、命を救うべく支援する命が奪われることあり、国内も事件あり。自分以外を尊重する心が足りないから。環境問題も然り。本能や欲望よりも冷冷静な理性を働かせ自己・自国主義よりも美しく心を寄せ合い和する時代へ。（川）

す べての犠牲者を記憶にとどめるー昨年11月、被爆地・広島を訪れたローマ教皇（法王）フランシスコの言葉です。半世紀近く前に取材した被爆者の遺族の声を思い出し、改めて核廃絶への思いを強くしました。（敏）

元 国連難民高等弁務官の緒方貞子さん逝く。クルドやルワンダなどの難民保護で紛争地を駆け巡った。「何よりも人命が最優先」と考え、現場主義を徹底した行動は、JAFSの姿勢と重なって見える。合掌（督）

入会のご案内

A. 維持会費	年額1口	12,000円 (月額1,000円)
B. 賛助会費	年額1口	6,000円 (月額600円=振込手数料含む)
C. ジュニア会費 (高校生まで)	年額1口	1,000円
D. 団体会費	年額1口	20,000円
E. 法人賛助会費	年額1口	50,000円

会費・寄付の振り込み先
郵便振込 00960-6-10835
三菱UFJ銀行中之島支店 普通1007011

皆さまが会員となつてサポートして下さることで、安定した活動計画ができます。継続した活動をしていくためにも、ご協力をお願いいたします。



募金にご協力をお願いします

アジアの安全な飲料水がない地域で
貧困に苦しむ人たちを支援する活動に使われます

郵便振替 00960-6-10835 アジア協会アジア友の会



HPもご覧ください



AccountAbility Self-Check 2013

▲将来の夢は「警官になってこの村を守るんだ！」=2019年3月、ネパール・シンドゥパルチョーク郡インドラワティ村

◀表紙の写真 インドネシア、バリ島で初の世界遺産として2012年に登録された広大なジャティルウィ棚田（ライステラス）。見学に訪れたアジア国際ネットワークセミナー参加者たちの周囲に、二期作、三期作で栽培されたイネが豊かに育っていた=2019年10月11日、4～9頁にセミナーの特集記事

編集・発行：公益社団法人 アジア協会アジア友の会

〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-2-14 肥後橋官報ビル5階

☎ 06-6444-0587 FAX 06-6444-0581

URL : <https://jafs.or.jp> E-mail : asia@jafs.or.jp

2020年1月140号 発行人：萩尾千里 編集人：村上公彦

広報企画委員長：法花敏郎

編集アドバイザー：松本 督、黒沢雅善

編集スタッフ：熱田典子、岩崎準一、大本和子、柿島裕、
金井英夫、川本裕子

印刷製本：あさひ高速印刷株式会社